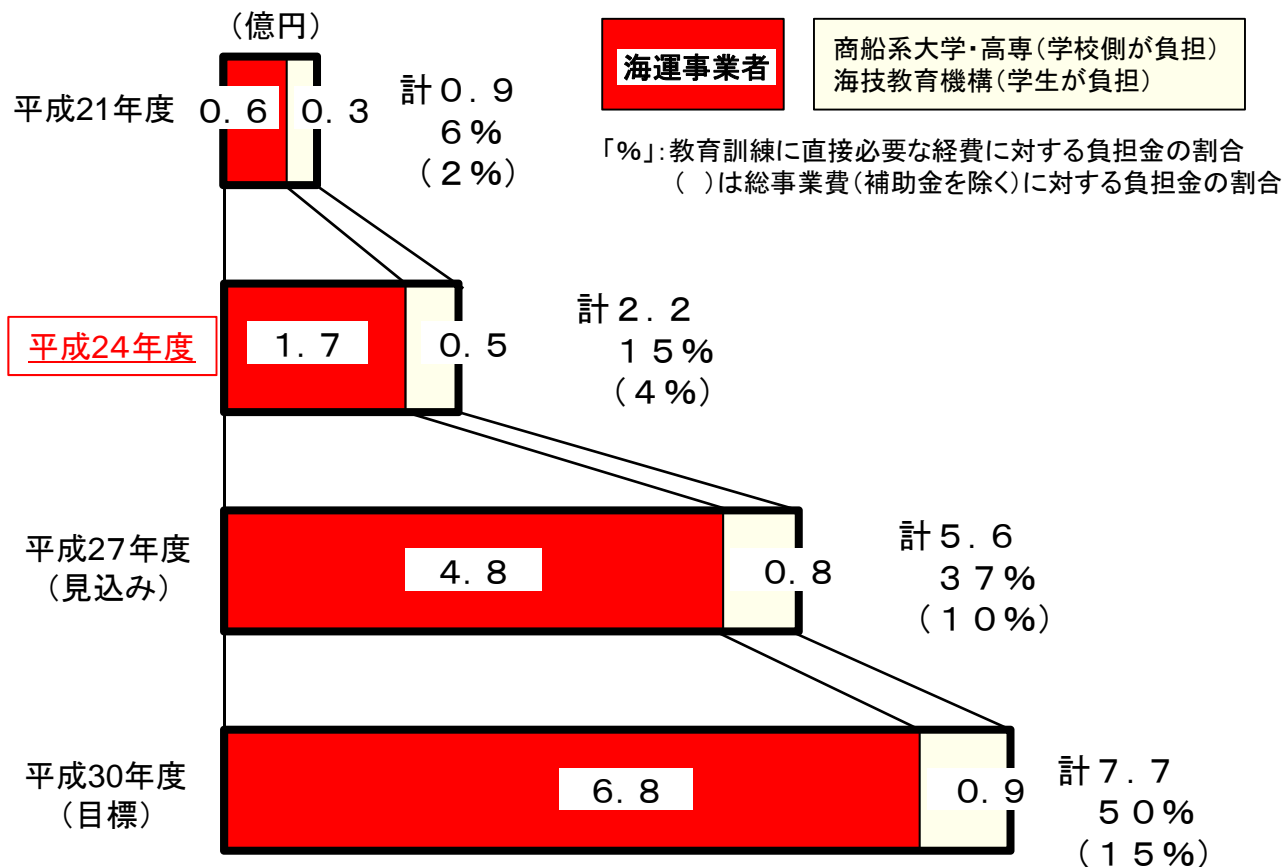


# 海運産業界による受益者負担(①費用負担)

## 航海訓練所

### 【乗船実習訓練の負担金】



(注) 平成28年度以降の拡大については、次期中期計画(計画期間は平成28~32年度)に盛り込むことを検討

## 海技教育機構、商船系大学・高専

### 【奨学金制度】

外航産業界、内航産業界からの寄附金を原資として商船系大学・高専、海技教育機構の学生に貸与(無利子)

### 平成25年度末の貸与状況(見込み)

(億円)	
海技教育機構	商船系大学・高専
4.6	6.8
(825名)	(742名)

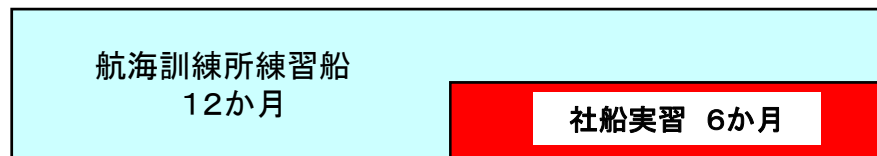
## (②社船実習の実施)

乗船実習は、平成20年度まで航海訓練所練習船によってのみ行っていたが、平成21年度以降、応用実践編として社船による乗船実習を取り入れ、より効果的なものとしている。今後、さらなる拡大を検討。

社船実習を行う際の船社の負担：学生1人当たり85万円/月の負担（航海訓練所における費用実績から算出）。船社としては、正規の船員に運航業務に加えて教員業務をも行わせることになり、また、受入れ学生の食費や傷害保険料なども負担することになる。

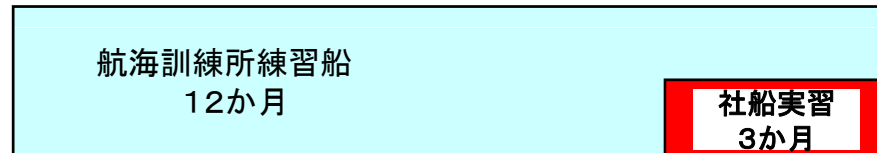
### 外航船 (商船系大学・高専)

(実施実績、平成26年度は見込み)



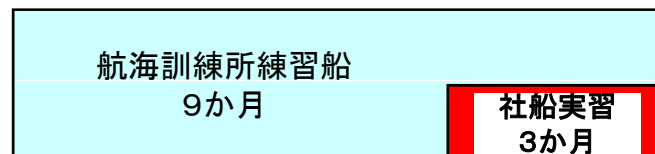
年度	21	22	23	24	25	26
学生数	40	46	41	31	32	33
実施事業者数	3	3	3	3	3	3

### 内航長距離フェリー・大型内航貨物船 (商船系大学・高専)



年度	26
学生数	3
実施事業者数	3

### 内航貨物船 (海上技術学校・短大)



年度	25	26
学生数	6	14
実施事業者数	5	10